

日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.3 スペイン語担当 川向さん

スペインにいた時に「へえー」と思ったことがいくつかありますが、まず最初がくしゃみです。エレベーターに乗っていた時、私はくしゃみをしてしまいました。すると、エレベーターに乗っていた人達が口々に、「ヘスス！（キリストのこと）」と言いました。健康でありますよということですが、大昔は口から悪い霊が入って病気になると信じられていたからだとのことですが、近くで誰かがくしゃみをする、たとえ見ず知らずの人にもでも反射的に言ってしまふんですね。でも、そう言われて私はちょっとうれしかったです。



さて、次の「へえー」は理学療法室を見学した時のことです。例えば肩のリハビリをする時、日本では、冬場なら長袖の服を着たままの人が多と思うのですが、スペインでは何も言われずとも、患者さんは上半身、下着一枚になります。股関節に問題がある人は、さっさとパンツ一枚になってしまい、「オイオイ、そこまで脱がんでも…」と思ってしまいましたが、理学療法士さんにとっては、評価も施術もしやすいのですね。医療文化の違いを垣間見た気がします。

最後の「へえー」はバルセロナで見たサン・パウ病院です。建物は世界遺産に指定されていて世界一美しい病院と言われています。現在は、病院として使われておらずその隣が病院になっています。天井が高く、美しいタイル張りの部屋を病室として使っていたとか。こんな美しい病院なら入院してもいいかな、なんてチラッと思わせる建物です。こんな芸術的な病院を建てるという感覚が、いかにもスペイン的です。日本語での説明はありませんが、ガイドさんが内部を案内してくれますので、バルセロナに行かれたら訪れてみてはいかがでしょうか。



今月のトピックス



「外国語の方言や訛り - もはや別言語？」 Vol.1

通訳者のピンチの場面をご紹介した際に、外国語の方言や訛りについて触れました。私たち通訳者にとって、患者さんの話す内容を聞き取って正確に伝えることは大原則ですが、時に「??チンプンカンプン！」ということもあります。

英語はアフリカ・アラブ・インド・東南アジアとさまざまな国籍の方から通訳依頼が入ります。それぞれの訛りは相当なもの、で、「えっ、英語？」と聞き返したくなる場合も…。有名なシンガポールの「シングリッシュ」、マレーシアの方も同じような特長ある英語で、「No need lah (ラー)」と語尾に付く「ラー」や「You go there meh (マー)？」の疑問文に付く「マー」は実は中国語の発音の影響だとかノ慣れるのにひと苦労です。

ポルトガル語は基本的にブラジルの方の通訳がほとんどですが、**スペイン語**は本国スペインと中南米の国々で単語の意味から違うそうです。ひと口に中南米と言いましたが、これがまたペルー・アルゼンチン、それにメキシコ等々、違いを挙げたらきりがありません。アルゼンチンでお腹を指す「panza」という単語を使って妊婦さんに「お腹大きくなったね」と話しかけたら、ペルーではその単語は「動物の腹」を言うらしく変な顔をされた、とか(笑)。通訳者は画面越しに患者さんの顔を見ながら、慎重に言葉選びをしています。



アドバイザー紹介 ～中国語～



私は中国生まれで、上海では放射線診断医として勤めていました。23年前に来日、15年ほど前にりんくう総合医療センターの南谷先生や伊藤先生と出会い、医療通訳に携わり始めました。その後、大阪大学人間科学研究科で「医療通訳の育成について」を勉強しました。「大阪大学医療通訳養成コース」の講師を第1期から務めています。

趣味はスポーツです。語学の勉強も好きなので、ニュージーランドで医療英語コースを受講していました。現在は、日本生命病院国際室担当部長として勤務しています。

大阪大学医学部附属病院に勤務していた時に中牟田さんと知り合い、私の中では医療通訳の質が日本 No.1 の Medi-Way からこの度、アドバイザーの依頼をいただき光栄な気持ちです。どうぞよろしくお願いいたします。

すえよしたか
陶 彬毅

